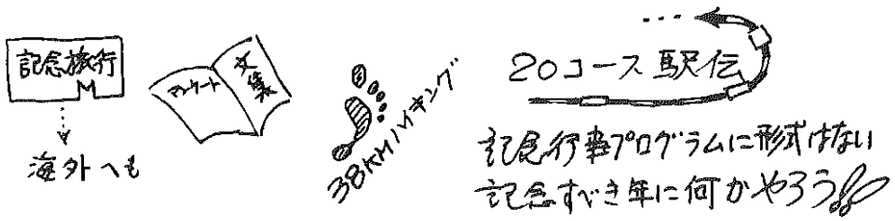
20周年をひかえて !!

早くも我38団発足以来 20年という月日が来年の4月にやってきます。
これで38団も成人になるということです。
○×周年という行事は団の自己確認というもので、団の発展の確認ということで行なうという事は決定しています。そこで過去の様子をちょっとお知らせしますと、

4周年　記念誌「燈魂 VoL 1」発行。記念焚火
8周年　〃　「〃 VoL 2」〃　〃
10周年　1969. 4.4 ~ 4.6
　4.4　式典　長体育　焚火
　.5　球技大会、フォークダンス、各隊発表、展示
　.6　バザー、モギ店、発表、展示
　※ 5.6日は室町校庭。
　バザーは育成会員の手作りの品々のソフト。

15周年　1974. 5.4 ~ 5.6　「集.動.認」「やろう.がってんだ!!」
　5.4~6にかけ西耳キャンプ場にて団キャンプを行なう。
　育成会員のお父もテントにて宿泊。オリエンテーリング
　各隊発表を行なう。
　「あしあと」発行。

20周年　1979. 募集中?
　さあ皆さんはどんなことを20周年と銘打って行なってみたいと考えられますか?。現在団委員会、事務局においても、20周年の方向性もとめています。皆さんの考えておられることを知りたいと思っています。どんなことでもいいのです。楽しいこと、おもしろいこと、しんどいこと…… どんなことでもいいのです。
　どしどし事務局まで知恵をかして下さい。



記念行事プログラムに形式はない
記念すべき年に何かやろう!!

だんぱ~　昭和53年4月9日発行
陽炎　第15号　京都ボ.S 38団事務局発行

久しぶりの登場でございます。今年度ことは、団報の季刊をと予定しておりましたが、事務局員の不足により長く休ませていただき、まことに申し訳なくおわび申しあげます。今後は出来るかぎり多く発行しようと、努力いたしますので、団全体に知らせたいことなどございましたらどしどし御利用下さいませ。

ボク団日本ジャンボリー出場スカウト決定す!!

1978年8月に開催されるボク団日本ジャンボリーへの38団より参加するスカウトが決定、発表されました。これら参加スカウトの活躍を皆で希望します。他のスカウトも次回には参加できるように日々の活動にはりきって下さい。

ボーイ隊　山岡隆久、板坂英之、橋真一
シニア隊　河原昌史、中川義雄、西村浩行、中西浩
ローバー隊　仙波豊天
リーダー　中村三之助、橋本信也、

新しいソング等のオミヤゲを待っています!

78年度カブ隊入隊の受け入れ説明会開かれる!!

来年度のC.S隊入隊受け入れ説明会が、5月1日(月)午後7時30分より八乃木長体で開催される予定です。
この会は団としての会議の方向づけで、内定するという会ではなく、八団委員会としての性格のものです。
なお各隊への入隊希望者は事務局五十嵐のまへ提出して下さい。
〆切は4月30日となっています。

シニア隊隊長結婚か?

先日来よりカンパチ事の噂をさわがしつづけていたS.S隊隊長橋本氏がこの程当局に明らかにしたところによりますと、ついに決定したとのことです。相手の女性はすでに御存じの今村純子さんだそうで、式は10月16日に決定。
二人の今後に幸多かれ。　弥栄、弥栄、弥栄!!

昭和53年 4月 9日

サンパチ育成会会員各位

サンパチ事務局

38団カブスカウト隊、4団カブスカウト隊 38団カブスカウト隊 分隊を実施するにあたってのご案内

三指、時下ますますご清栄のことお慶び申しあげます。

さて、標記のようにカブ隊分隊実施について、その説明ならびに現在までの経過、さらに実施計画について、育成会員各位のご協力をいただくべくお知らせご案内申しあげます。

38団カブスカウト隊はここ近年めざましい発展を続けておりますことは、ご存知の通りで、毎年入隊希望があとをたちません。過去の登録状況をみましても、S50－41名，51－40名，52－42名，を記録、今度の登録予定では少し減って37名ですがそれでも定められている限界36名を越えている現状です。この点につきまして従来継続登録が特例的に認められていますのは、上進するボーイ隊が、同じ場所に団本部をもつ4団と38団であることと、4団に将来カブ隊を発隊する準備措置の為の隊員数であるとの理由が了承されていることによっております。

そこで、このたびは 団委員長小川先生が4団にもそろそろカブ隊を考えてもとの計画と、地区よりのすすめとが相いまって、カブ隊分隊の準備にかかってはどうかとの指示を両団にされました。各団委員会も検討の上、2月14日の合同団委員会が開らかれ、分隊の時期を昭和53年9月にすることで話し合いがすすみ、それまでに行なうべき準備作業が検討されました。

分隊にともなう手続きは昭和53年4月1日よりの登録事務手続で行なっておくが実態は現況のまま何ら変化しないということにして、ただ準備の都合上、4団の関係諸会議には、将来4団編入者の出席が求められ、また、当該リーダー追加の場合には、現CS隊も受け入れをして養成の協力を申し入れました。 ただ書類上対外的には4団にCS隊が存在することになりますので、この点、地区カブ委員などはそれぞれの地域から2名ずつ派遣することになりました。

分隊後の申し合わせとして，小川先生から希望が示めされた各隊とも原則として3組をこえる人数を容しないようにしてほしい点―収容人数の限界だから―を了解し、さらに新入隊員募集は独自に行なうが、各区域を府る（橋君転宅の為例外）こととしました。今後は今まで以上にハウス長休協議会等を通じて親密な仲間作りをしていくことは云うまでもありません。

今回、分隊するねらいは、隊が拡大化することによって得られるメリットに対し、失なわれるメリット ―つまりカブスカウトが得るところのカビング"の機会― を考えた場合、規約に示されるごとく、標準組織でもってそれが可能であるという点と、団毎に各4コ隊を容することが自然で、また求められるべきものであるからという点にあります。さらに、おたがいに、受け入れられる体制がととのっている現実がこのねらいを強調している点でまたとない機会と考えるのです。どうか、育成会会員各位のあたたかいご支援とご理解を承りますよう、以上お願い申しあげます。